



## クラゲはなぜ自分の毒で死なないの

### 毒は相手に針が付きささったとき出る

クラゲは、種類によって、形も毒の強さもちがいます。クラゲのかさの下にぶら下がっている、足のようなものを、うでとよびます。このうでに、毒液の入った注射器のようなものをもった「し胞」が、たくさんついています。クラゲが、うでを獲物に巻きつけたとき、し胞の注射器から、バネの力で毒針が飛び出し、獲物につきささります。

### 毒で弱らせたえさを食べても平気

クラゲは、毒で弱った獲物を口に入れます。毒へびなどが、毒でたおした獲物を食べても平気なように、クラゲも、毒で弱らせた獲物を食べても大じょうぶな、体のしくみをもっているようです。「し胞」の毒は、針をつきささない限り、注射器の中に入ったままですから、クラゲの体には入ってきません。

### クラゲの毒は、こわい

クラゲの毒は、さまざまな成分が混じったものと考えられていますが、くわしくはわかっていません。でも、同じクラゲに何回かさされると、さされる回数がふえるほど、人間の体を感じる毒性は強くなり、死ぬこともあるので危険です。（監修・杉浦 宏）

